

## 編集後記

昨年より編集委員のメンバーに加わっております。会員の皆様のご尽力により「Annals of Nuclear Medicine」誌にインパクトファクターが認められて以来、国内外から本誌への投稿が顕著に増加しています。国外から投稿される国の範囲も広がってきています。編集に携わる委員の一人として、やりがいを感じるとともに、日本の誇る医学誌の一つとして成熟させていく努力をしたいと思っています。1つ1つの論文の質を高めていくことが重要と思われ、査読していただいた方から、厳しくも的確なコメントをいただいた時には有り難いことだと心底から感じます。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

ここで、最近の私見の一つを述べます。形態像であるCTと機能画像であるPET・SPECTの融合像は、日本核医学会総会および米国核医学会では、これまでも幾度となく取り上げられてきたテーマであり、「核医学」や「Annals of Nuclear Medicine」誌にも、

これに関する研究論文が寄せられてきました。昨年末のRSNAでもメインテーマの一つになっていました。融合像は、核医学検査で認められる集積部位や欠損部の正確な解剖学的位置を示すのに有用であるのみならず、PET・SPECT像の吸収補正や、近年普及してきた定位集光照射による放射線治療の正確なターゲット決定にも役立つものと期待されます。融合像は核医学を専門としない医師に核医学で得られた機能情報をわかりやすい形で伝えるのにも有用で、核医学検査の重要性をアピールする手段としても役立つと考えられ、今後の普及が望まれます。最近では、CTとPET・SPECTを合体したハイブリッド装置が登場し、融合像が作成されていますが、それでもなお、上腹部や胸部などの呼吸運動の影響を受ける領域では、高精度の融合像を得るためには、ハードとソフトの両面でのさらなる発展と成熟が必要のようです。今後も、日本および世界の核医学に携わる医師や技術者から、融合像の普及に貢献する革新的技術や知見が「核医学」や「Annals of Nuclear Medicine」誌に寄稿されてくることを期待しております。  
(菅 一能)

## 核医学編集委員会

委員長：	鈴木	豊	(東海大学 放射線科)
副委員長：	伊藤	健吾	(国療中部病院長寿医療研究センター)
委員：	菅	一能	(山口大学 放射線科)
	滝	淳一	(金沢大学 核医学科)
	塚本	江利子	(札幌医科大学 放射線科)
	畑澤	順	(大阪大学 生体情報医学)
	森	豊	(東京慈恵会医科大学 放射線科)

「核医学」第40巻2号 平成15年5月20日 発行 本号定価 ¥1,500

編集兼発行者 鈴木 豊

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-45 日本アイソトープ協会内

発行所 日本核医学会

振替口座 00150-1-80331 番

電話東京 (03) 3947-0976 FAX (03) 3947-2535

E-mail : jsnm@mtj.biglobe.ne.jp

ホームページ : <http://www.jsnm.org/>

印刷所 株式会社 海川 企画

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-51-1

電話 (03) 3806-0961 (代) FAX (03) 3806-0848

広告申込所 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-12-8 電話 (03) 5226-2791 (代) 日本医学広告社